

昭和59年(1984)

オリンピック選手誕生

昭和59年飛騨地方から初のオリンピック選手が誕生しました。昭和53年本校卒の高村誠一さんでした。

高村選手ロサンゼルスオリンピック出場

飛騨地方から初めて誕生したオリンピック選手は、本校卒業生の高村誠一さんでした。高村さんは益高時代に中島幸一先生に指導を受け、ハンドボールの面白さを知ったそうです。オリンピック出場に際しては、本校に高村さんを招き、全校生徒の参加で壮行会が開催され、スライドによる紹介、ハンドボール部員からの花束贈呈、全校生徒による校歌の大合唱で激励しました。高村さんからは「とにかく努力をすることです。それでも良い結果が出なかつたら、もっと、もっと、努力するんです」との言葉が、益高の後輩たちに伝えられました。



7月4日
体育館での高村君壮行激励会

中島幸一先生と

ハンドボール

大同特殊鋼株式会社 高村誠一

私は萩原南中学校でバスケットボールに夢中になっていました。高校進学後も続けたかったのですが、残念ながら当時の益高にはバスケット部がなく、よく似たスポーツというところでハンドボール部に入部しました。

中島先生は私が2年生の時、益高に赴任されました。先生は大学を出てまだ2・3年の元気一杯のバリバリでしたので、体育の授業はもちろん、部活動も我々と一緒に汗を流してくださいました。大抵はプレーができていただけに我々とはレベルが違い、特に逆サイドからジャンプして空中で体を真横に倒しながら放つシュートには驚きました。

初心者ばかりだった我々も中島先生の熱心なご指導のおかげで少しずつ実力を伸ばし、県大会でもそこそこの成績を残せるようになってきました。我々のチームは実力的には県でベスト4くらいだったと思います。一度だけ県岐阜商高と決勝戦を戦ったことがあると記憶しています。飛騨の山間部で育った我々は、夏の県大会に行くこと、まずその暑さに苦しめられたことを思い出します。

高校時代、決して良い生徒ではなかった私でしたが、中島先生は常に我々の目線まで降りてきてくださり、ハンドボールを通じて人間として何が大切なのかを一生懸命

命教えてくださいました。私はそんな中島先生にあらがれ、将来は体育の先生になろうという夢を持つようになりました。

最終的には大同特殊鋼という鉄鋼会社に就職することになり、教員になって先生と一緒に夢はチームでプレーするとう夢は叶いませんでしたが、中島先生との出会いでハンドボールが好きになり、先生に教えていただいた「ハンドの基礎」のおかげで、オリンピックという檜舞台も経験させていただきました。

中島先生のご恩に対し私ができることは、先生に教えていただいたハンドボールの素晴らしさをより多くの人に伝えていくことと、個人としては先生の教えを基本にしながら自らの生き方を考え、それを実践し、社会に貢献できる人間になること。剣の道でいうところの「守・破・離(しゅはり)」ではないかと思えます。人生の中でも非常に重要な高校時代に素晴らしい先生に出会えたことに「運」を感じ、感謝しています。

80周年記念誌寄稿文より



寄贈された高村さんのオリンピックユニフォーム (校長室前に展示)